



富山県立大学

平成 21 年度日本学術振興会二国間交流事業共同研究・セミナーに本学からの申請が 1 件採用されました

平成 21 年度日本学術振興会二国間交流事業共同研究・セミナー（ロシアとの共同研究）について、本学の浅野泰久教授（県立大学工学部生物工学科）の申請が採用されましたのでお知らせします。

1. 研究題目

「D-アミノペプチダーゼ類の基質特異性の *in silico* 解析とアミド合成への利用」

2. 実施期間

平成 21 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

3. 計画概要

この研究は、モスクワ大学（Lomonosov Moscow State University）生物工学・生物情報学部（Faculty of Bioengineering and Bioinformatics）のヴィタス・スヴェダス教授からの強い要請により、両国共同で応募し、採択されたものである。

まず、5 月に、浅野教授および博士前期課程 2 年生の大塚稔君が、共同研究先のスヴェダス教授を訪問する。共同研究の開始に当たって概要を説明し、今後の展開について協議する。独自に開発した 2 種類の酵素を大量に持参する。モスクワ大学との共同研究によりこれらの酵素反応の解析を深化し、酵素を用いる合成へ応用することが期待できる。

9 月には、スヴェダス教授と 2 名の大学院生が本学を訪問し、講演会に続いて、学生同士が研究の進捗状況について議論する予定である。

この研究は平成 22 年度も継続され、生物工学科の大学院生数名がモスクワ大学を訪問し、共同研究を行う計画である。

4. 共同研究先

モスクワ大学（Lomonosov Moscow State University）は、18 世紀の科学者ミハイル・ロモノーソフによって 1755 年に創設されたロシアの最高学府であり、世界的にもよく知られた総合大学の 1 つである。21 の学部で構成され、3 万 1000 名以上の学部学生と約 7000 名の大学院生が学び、5000 名以上の専門家が再教育を受けている。学部と研究機関は 4000 名の教授、講師陣を擁し、約 5000 名の研究者に対する訓練の場となっている。

スヴェダス教授は、欧州生物工学連合、応用酵素学委員会のロシア代表者である。現在、約 40 名の研究室構成員を率いて、酵素反応の動力学研究、アシル基転移反応、医薬品の酵素的合成等について分子モデリング、バイオインフォマテフィックス等の技術を駆使して活発に研究を行っている。



(モスクワ大学、写真は Wikipedia より)